

ICT教育の環境整備状況と成果 及びGIGAスクール構想への本市 の対応について

高子 秀明



〔質問〕教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画において、ICT整備方針には目標水準が示されている。

この水準と照らし合わせた本市の進捗状況を伺う。

〔答弁〕「教育長」学習者用コンピュータは現在311台、指導者用コンピュータは150台設置しており、超高速インターネット及び無線LAN、統合型校務支援システムは100%整備している。

〔質問〕文部科学省の政策であるGIGAスクール構想について、所見を伺う。

〔答弁〕「市長」未来社会のコンセプトであるSociety 5.0時代に生き

る子どもたちにとって、パソコン端末は鉛筆やノートと並ぶ必需品となっている。

社会のグローバル化に対応できる人材育成という観点からも、ICTを活用したプレゼン能力向上は学校教育において必須事項となっており、国のGIGAスクール構想は学校に必要なものと考えている。

◎市立幼稚園アンケート ト意見から見える本市の課題

〔質問〕市立幼稚園アンケートの意見の中で「療が充実していないところ子どもを産もうとは思わない。産んだとしても子どもを預ける先がない」との切実な状況が記入されていた。

市長の人脈で産婦人科医を本市に招いて開

業していただくか、または刈田綜合病院に勤務いただくよう働きかけられることを検討いただきたい。

第五次白石市総合計画には「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援」とある。

しかし、肝心なところが本市には抜けていると思うが、いかがか。

〔答弁〕「市長」産婦人科医の不足は、現在、東北大学の医療政策としてセミオーブンシステムで対応している。

一番大事なのは、母子の命を守り、安心安全な出産ができる環境を整備することであり、かかりつけ医と基幹病院との連携が大変重要となっている。

産科医師の招聘には、現在も全力を尽くしているが、産科に限らず今後とも全力で地域医療提供体制の充実強化に取り組んでいく。

教育施設のユニバーサルデザイン 及びバリアフリーと合理的配慮に ついて

沼倉 啓介



〔質問〕できるだけ多くの人を利用可能であるデザインとするユニバーサルデザインは、デザイン対象を障害者に限定していない点がバリアフリーとは異なるとされているが、日本国内においては混同され、必ずしも正しく理解されていない。

学校など教育施設のバリアフリー化に関しては、文部科学省大臣官房文教施設部の指針の中で基本的な考え方が示され、合理的配慮については、何らかの助けを求める意思表示があった場合、過度の負担になり過ぎない範囲で社会的障壁を取り除くために必要な便宜を施すとされている。

から危ないといった観点から物事を見るとすれば、この問題は解決しない。
逆に障害を持った子どもに対し、先生や障害を持っていない子どもたちが補助することは情操教育にもつながるのではないか。
〔答弁〕「教育長」情操教育の面については、否定はしない。
しかし、情緒の部分をもどのように育むかについては、行政の設置者として合理的配慮を強く考えねばならないと認識している。

学校など教育施設のバリアフリー化に関しては、文部科学省大臣官房文教施設部の指針の中で基本的な考え方が示され、合理的配慮については、何らかの助けを求める意思表示があった場合、過度の負担になり過ぎない範囲で社会的障壁を取り除くために必要な便宜を施すとされている。

この説明に関し、実例などがあれば伺う。
〔答弁〕「教育長」教員や支援員が配慮することにより、転落事故などに至ったケースは今までない。

しかし、防災の観点からも地震や火事など有事の際は、2階建てより平屋の園舎のほうがより安全に、より早く避難できる利点があると考えている。

〔質問〕ホールが2階にあり、飛び降りをする

子どもたちのために最善の思考をしていただきたいが、いかがか。
〔答弁〕「教育長」今後とも必要な教育環境を整備し、可能な限りとも学が仕組みづくりなど生きる力の育成に努めていく。